

テーマ：消費者物価（全国2月、東京都区部3月） 発表日：2011年3月25日（金）
 ～4月には明確にプラス転化。基準改定後もプラスを維持する可能性大～

第一生命経済研究所 経済調査部
 担当 主任エコノミスト 新家 義貴
 TEL：03-5221-4528

(単位：%)

		全国					東京都区部				
		総合	生鮮除く総合	食料(酒類除く)及びエネルギー除く総合	石油製品	生鮮食品を除く食料	総合	生鮮除く総合	食料(酒類除く)及びエネルギー除く総合	石油製品	生鮮食品を除く食料
		前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比
09	1月	0.0	0.0	▲0.2	▲23.4	3.7	0.5	0.5	▲0.3	▲28.3	3.0
	2月	▲0.1	0.0	▲0.1	▲21.5	3.3	0.5	0.6	▲0.1	▲24.6	2.7
	3月	▲0.3	▲0.1	▲0.3	▲21.8	2.9	0.2	0.4	▲0.4	▲25.0	2.4
	4月	▲0.1	▲0.1	▲0.4	▲13.2	2.0	▲0.1	0.0	▲0.6	▲12.8	1.5
	5月	▲1.1	▲1.1	▲0.5	▲22.6	1.4	▲0.8	▲0.7	▲0.9	▲25.9	1.0
	6月	▲1.8	▲1.7	▲0.7	▲26.3	0.5	▲1.5	▲1.3	▲1.0	▲28.8	▲0.1
	7月	▲2.2	▲2.2	▲0.9	▲27.9	0.1	▲1.8	▲1.7	▲1.1	▲30.0	▲0.5
	8月	▲2.2	▲2.4	▲0.9	▲29.1	▲0.5	▲1.7	▲1.9	▲1.1	▲30.1	▲0.9
	9月	▲2.2	▲2.3	▲1.0	▲24.5	▲0.5	▲2.1	▲2.1	▲1.4	▲25.1	▲1.3
	10月	▲2.5	▲2.2	▲1.1	▲19.8	▲1.1	▲2.4	▲2.2	▲1.4	▲20.0	▲1.8
	11月	▲1.9	▲1.7	▲1.0	▲8.4	▲1.2	▲2.2	▲1.9	▲1.3	▲6.3	▲1.7
	12月	▲1.7	▲1.3	▲1.2	2.6	▲1.5	▲2.2	▲1.9	▲1.5	4.7	▲1.7
10	1月	▲1.3	▲1.3	▲1.2	10.9	▲1.5	▲2.1	▲2.0	▲1.4	14.2	▲2.0
	2月	▲1.1	▲1.2	▲1.1	11.5	▲1.4	▲1.8	▲1.8	▲1.3	12.7	▲1.6
	3月	▲1.1	▲1.2	▲1.1	12.0	▲1.8	▲1.7	▲1.8	▲1.2	14.2	▲2.0
	4月	▲1.2	▲1.5	▲1.6	13.2	▲1.6	▲1.5	▲1.9	▲1.4	13.1	▲1.8
	5月	▲0.9	▲1.2	▲1.6	15.7	▲1.7	▲1.4	▲1.5	▲1.4	16.5	▲1.9
	6月	▲0.7	▲1.0	▲1.5	12.3	▲1.3	▲1.0	▲1.3	▲1.4	11.8	▲1.7
	7月	▲0.9	▲1.1	▲1.5	7.8	▲1.4	▲1.2	▲1.3	▲1.4	5.9	▲1.9
	8月	▲0.9	▲1.0	▲1.5	7.0	▲1.3	▲1.0	▲1.1	▲1.4	4.4	▲1.7
	9月	▲0.6	▲1.1	▲1.5	4.0	▲1.4	▲0.6	▲1.0	▲1.3	1.7	▲1.6
	10月	0.2	▲0.6	▲0.8	4.0	▲1.3	0.3	▲0.5	▲0.6	3.7	▲1.2
	11月	0.1	▲0.5	▲0.9	5.0	▲1.2	0.2	▲0.5	▲0.6	4.1	▲1.1
	12月	0.0	▲0.4	▲0.7	5.8	▲1.1	▲0.1	▲0.4	▲0.5	4.7	▲1.3
11	1月	0.0	▲0.2	▲0.6	8.5	▲0.9	0.0	▲0.2	▲0.3	8.4	▲0.8
	2月	0.0	▲0.3	▲0.6	7.8	▲0.9	▲0.1	▲0.4	▲0.3	6.4	▲1.1
	3月	—	—	—	—	—	▲0.3	▲0.3	▲0.3	12.3	▲1.1

(出所)総務省統計局「消費者物価指数」

○ 基調としては下落幅は緩やかに縮小傾向

総務省より発表された2011年2月の全国消費者物価指数(生鮮食品除く)は前年比▲0.3%となり、前月の同▲0.2%から下落幅が小幅拡大した(市場予想：▲0.3%)。ただこれは前年の裏が出ている面が大きく、季節調整値では前月比横ばいである。また、食料・エネルギーを除く総合は同▲0.6%(1月：同▲0.6%)と前月から下落幅は変わらなかった(季節調整済み前月比では+0.1%)。なお、足元で攪乱要因となっている高校授業料やたばこを除いた系列を試算すると前年比▲0.1%となる(1月：同0.0%、ボトムは09年8月の同▲2.5%)。また同様に、米国型コアから高校授業料とたばこを除いた系列を試算すると前年比▲0.3%(1月：同▲0.3%)となり、2010年1月の同▲1.3%をボトムとして下落幅が縮小している。単月で見れば下落幅が拡大した系列もあるが、前年の裏が出ている面が大きく、基調としては物価下落幅の緩やかな縮小傾向が続いている状況に変化はない。09年春以降の景気回復の影響が徐々に出てきているのだろう。

品目別では、ガソリンが前年の反動からプラス寄与を縮小させたほか、電気代や都市ガス代も前月からプ

ラス寄与が縮小したことが目立った。一方、このところ衣料品関連での上昇が目立っており、衣料は前年比+1.8%（1月：同+1.4%）の高い伸びになった。綿花等の原材料費上昇の影響が出始めている可能性があるだろう。その他、生鮮食品を除く食料は同▲0.9%と前月から下落幅は変わらなかった。

○ 東京都区部でも下落幅は緩やかに縮小

2011年3月の東京都区部消費者物価指数（生鮮食品除く）は前年比▲0.3%と、前月（同▲0.4%）から下落幅が小幅縮小した（季節調整済み前月比では横ばい）。ガソリンや灯油といった石油関連製品が大幅に上昇したことの影響が大きいほか、衣料品関連の上昇率も引き続き拡大している。また、食料・エネルギーを除く総合は同▲0.3%（2月：同▲0.3%）と前月から下落幅は変わらなかった。また、CPIコアから高校授業料とたばこを除いた系列を試算すると前年比▲0.1%となる（2月：同▲0.2%）。また同様に、米国型コアから高校授業料とたばこを除いた系列を試算すると前年比▲0.1%（2月：同▲0.1%）となる。基調としてみれば、全国と同様に物価下落幅の緩やかな縮小傾向が続いている。なお、東京都区部の3月調査期間は9～11日であり、東日本大震災の影響は反映されていない。

その他、生鮮食品を除く食料は前月から下落幅は変わらなかった（前年比▲1.1%）。今のところ、食料品価格上昇の動きは消費者物価指数では確認できないが、今後については、国際的な食料品価格上昇の影響が徐々に出てくる可能性が高いだろう。

○ 4月には明確にプラス転化。基準改定後もプラスを維持する可能性あり

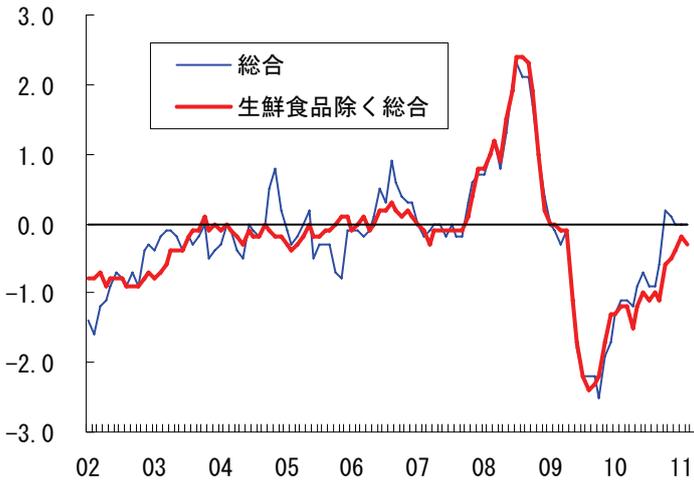
東京都区部の動向から2011年3月の全国消費者物価指数（生鮮食品除く総合）を試算すると、前年比▲0.1%となり、2月から0.2%ポイント下落幅が縮小することが予想される。原油価格上昇を受けて、ガソリンや灯油のプラス寄与が拡大することが影響する見込みだ。また、その先を展望すると、高校授業料無償化の影響が一巡する4月には前年比+0.6%～+0.7%程度に一気に上昇し、プラス圏に浮上する可能性が高いだろう。

その後についても、上振れ気味の推移が続く可能性が高い。原油高の影響が顕在化してくるほか、現時点ではマイナスが続いている食料品価格についても、今後は上昇に向かう可能性が高いと思われる。2011年8月に予定されている消費者物価基準改定では0.7%ポイント程度下方改定されると予想されるが、2011年夏の消費者物価指数（現行基準）は前年比で+1%程度まで上昇しているとみられ、基準改定後についてもプラスを維持する可能性が高いと予想される。なお、こうした商品市況の上昇に伴うコストプッシュ型の物価上昇は、家計の実質購買力縮小を通じて景気の下押し要因になる点に注意が必要である。

○ 震災の影響は現時点で不明

東日本大震災による物価への影響については予想が難しい。供給制約による物資の不足は物価を押し上げる要因になるが、一方で、消費活動の落ち込みにより需要が大幅に減ることで物価下押し圧力が生じる面もある。どちらの影響が勝るかを判断することは難しく、現時点で影響は不明である。

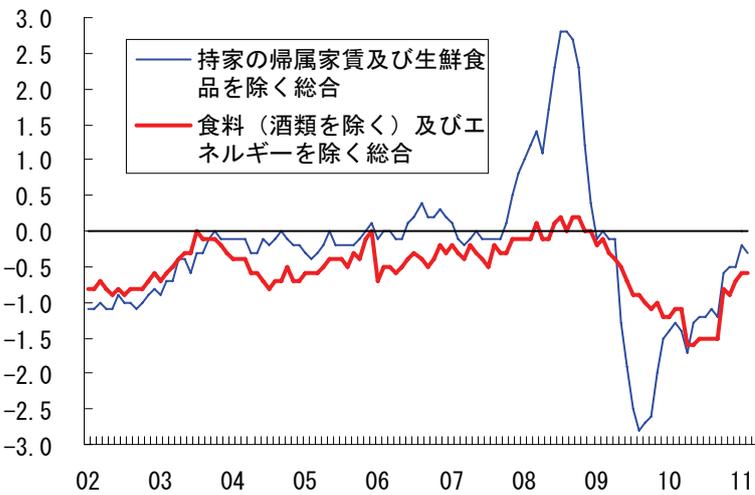
全国消費者物価指数（前年比、%）



東京都区部消費者物価指数（前年比、%）



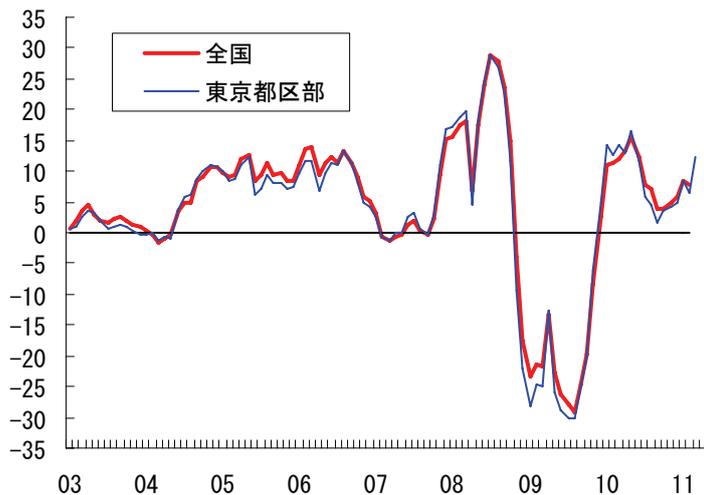
全国消費者物価指数（前年比、%）



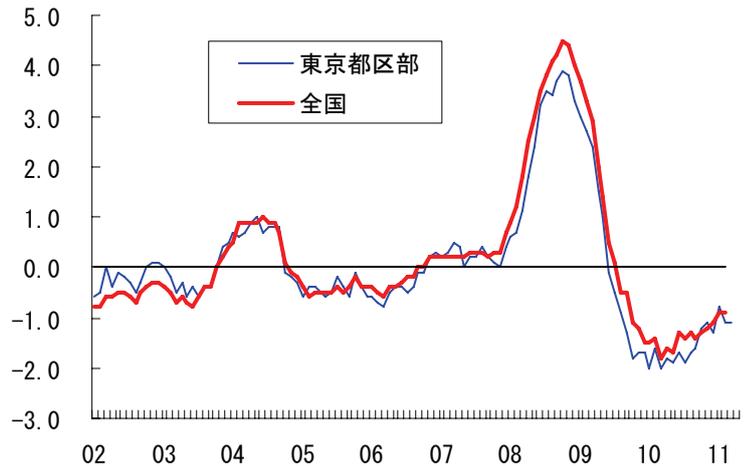
東京都区部消費者物価指数（前年比、%）



石油製品（前年比、%）



生鮮食品を除く食料（前年比、%）



（出所）総務省「消費者物価指数」